

岡山市口腔機能向上プログラム「お口と食の健康教室」に関する検討 － アンケート調査からの考察 －

Examination of Oral Function Improvement Program Provided by Okayama City “Health Activities for Oral Care and Nutrition”
－ Consideration to Questionnaire Survey －

○ 吉田 雅智, 相坂 有一郎, 角谷 真一, 松永 匡司
○ Masatomo Yoshida, Yuichiro Aisaka, Shinichi Kadoya and Tadashi Matsunaga

一般社団法人 岡山市歯科医師会
General Incorporated Association Okayama City Dental Association

【目的】

超高齢化社会に向けて、介護予防の需要は益々増大傾向にある。高齢者の口腔機能の向上や栄養状態の改善が介護予防に寄与することは明白であり、岡山市では平成 19 年度から毎年、高齢者を対象として、介護予防教室「お口と食の健康教室」を開催している。これは岡山市内歯科医師会連合会、岡山市地域包括支援センター、岡山県歯科衛生士会、岡山県栄養士会が連携して行っている事業である。

本事業において、受講直後の受講者満足度や口腔機能向上に関して高評価が得られたことは、これまでの調査により確認されている。しかしながら、本事業が長期に亘り受講者の日常生活の向上に貢献できているのか不明である。

そこで、受講から長期経過後の実態についてアンケート調査を行い、より有意義な健康教室プログラム作成について検討した。

【対象および方法】

「お口と食の健康教室」は、全 3 回／コース、130 分間／回で、歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士からなる 5 人のスタッフで実施している。岡山市にある 6 つの地域包括センター毎に 1 会場を設定し、受講者は岡山市在住の高齢者で約 10 人／会場であった。平成 19 年度から毎年実施を継続しており、過去 7 年間の総数は 38 会場、受講者 439 人であった。

平成 19 年度～24 年度受講者アンケートについて分析した。

受講直後のアンケート回答者総数は 240 人であり、集団対応として歯科医師による講話、個別対応として歯科衛生士による指導と管理栄養士による指導の計 3 項目において満足度を評価した。

長期経過後のアンケートは平成 25 年 9 月に行い、回収できた回答者総数は 114 人であった。集団対応として歯科医師による講話と「健口体操」、個別対応として歯科衛生士による指導と管理栄養士による指導の計 4 項目において満足度を評価した。

【結果と考察】

1) 受講直後と長期経過後の内容別満足度の変化は、歯科医師の講話が 81% から 56%、歯科衛生士の個別対応が 77% から 72%、管理栄養士の個別対応が 51% から 51% であり、受講から長期経過後における受講者の満足度は、講話では 3 割減少したのに対して、個別対応では 1 割未満とかなり低く抑えられていた。これは、講話では受講者は受動的であったのに対して、個別対応ではスタッフと受講者とのコミュニケーションが図られたためと思われる。

2) 受講者参加型の健口体操は、集団対応であったにもかかわらず、長期経過後でも受講者の高評価を維持していた。これは、受講者も能動的に行動するため評価が維持されやすく長期間に亘る評価の維持を得ることができたためと思われる。

3) 7 割にも及ぶ受講者が健康教室で知り得た知識を伝搬していた。

記憶の定着を図るには入力よりも出力の方が効果的であるという観点からも、健康教室をより有意義なものにするために、受講者が能動的に参加できるプログラムを作成することの重要性が示唆された。

岡山市口腔機能向上プログラム
「お口と食の健康教室」
に関する検討

ー アンケート調査からの考察 ー

一般社団法人
岡山市歯科医師会

「お口と食の健康教室」について

岡山市内歯科医師会連合会
岡山市地域包括支援センター
(一社)岡山県歯科衛生士会
(公社)岡山県栄養士会
全3回/コース 130分間/回
スタッフ5人: 歯科医師, 歯科衛生士, 管理栄養士
受講者: 岡山市在住高齢者10人程度/会場
1会場/4~6ブロック/年
平成19年から毎年9月以降に実施
全38会場, 全受講者439人
(平成19年から平成25年までの過去7年間の総数)

スケジュールの概要

- 第1回目
講話(歯科医師30分間, 管理栄養士15分間)
個別対応 65分間(健診, 口腔ケア相談, 栄養相談)
レクリエーション: 「健康長寿の目標」の考案
嚥下(健口)体操
- 第2回目
講話(管理栄養士15分間, 歯科衛生士15分間)
個別対応 75分間(口腔ケア相談, 栄養相談)
レクリエーション: 「健口川柳」の作成
嚥下(健口)体操
- 第3回目
個別対応 60分間(健診, 口腔ケア相談, 栄養相談)
レクリエーション: 理想的な献立作り
嚥下(健口)体操
講話(歯科医師15分間)
修了証書授与式

会場(集団対応時)の様子

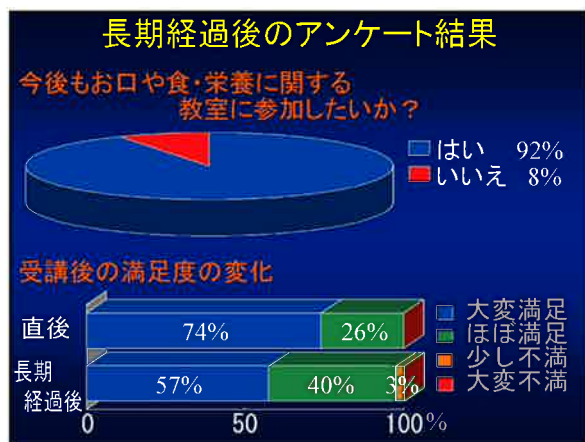
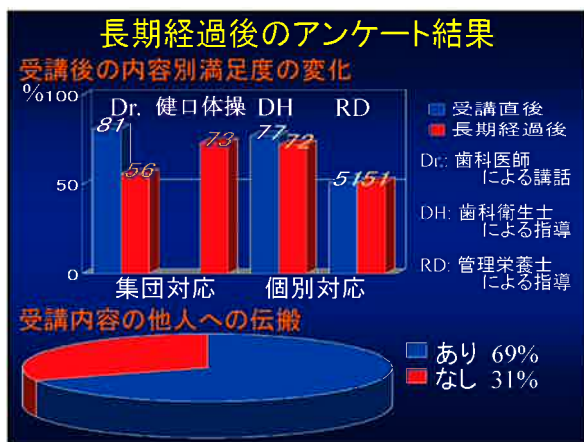
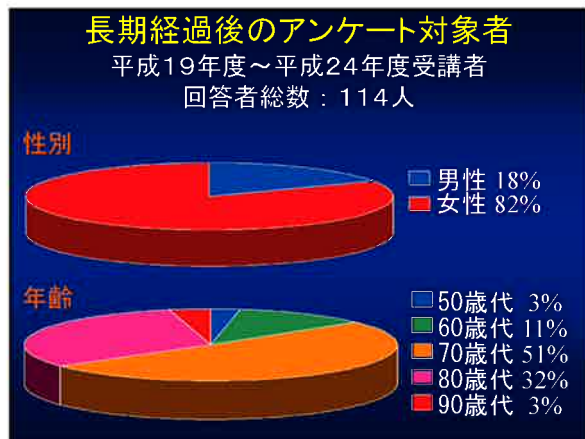
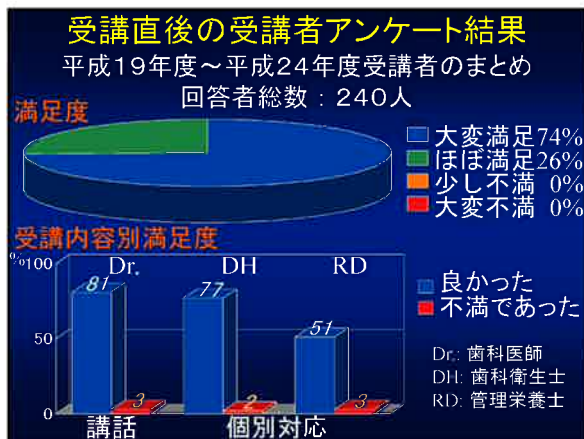


会場(個別対応時)の様子



修了証書と修了証書授与式の様子





まとめ

- ① 受講から長期経過後における受講者の満足度は、講話では3割減少したのに対して、個別対応では1割未満とかなり低く抑えられていた。
- ② 受講者参加型の健口体操は、集団対応であったにもかかわらず、長期経過後でも受講者の高評価を維持していた。
- ③ 7割にも及ぶ受講者が健康教室で知り得た知識を伝搬していた。

記憶の定着を図るには入力よりも出力の方が効果的であるという観点からも、健康教室をより有意義なものにするために、受講者が能動的に参加できるプログラムを作成することの重要性が示唆された。